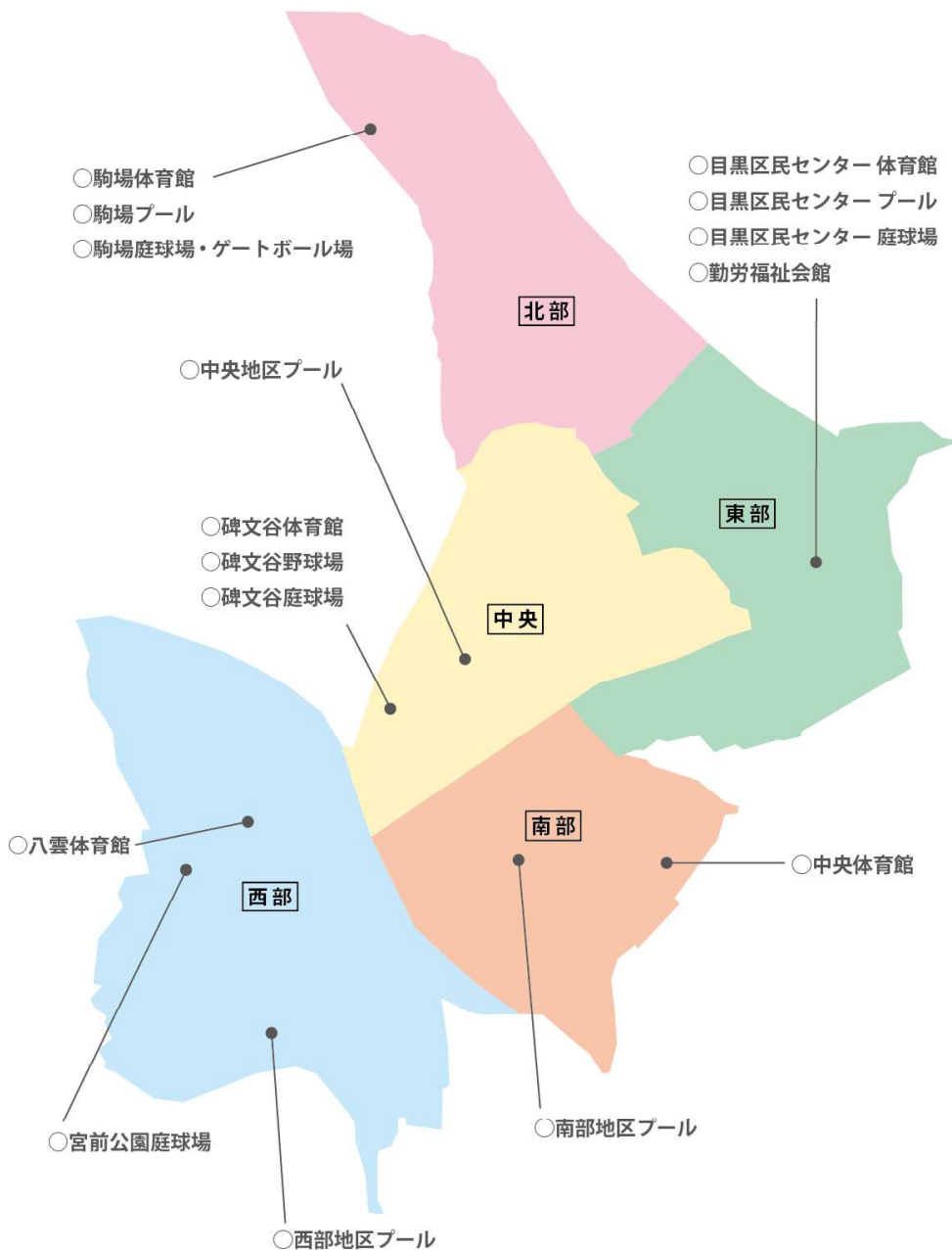


(3) スポーツ実施環境

① 目黒区内のスポーツ施設一覧

区では区内5地区の生活圏を前提に、計画的に区立スポーツ施設を整備しており、令和7(2025)年度現在、体育館5カ所、プール5カ所、庭球場4カ所(ゲートボール場兼用1カ所)、野球場2カ所、サッカー場1カ所となっています。さらに、目黒区民センター内にある勤労福祉会館には、卓球室1カ所、洋弓場1カ所を整備しています。

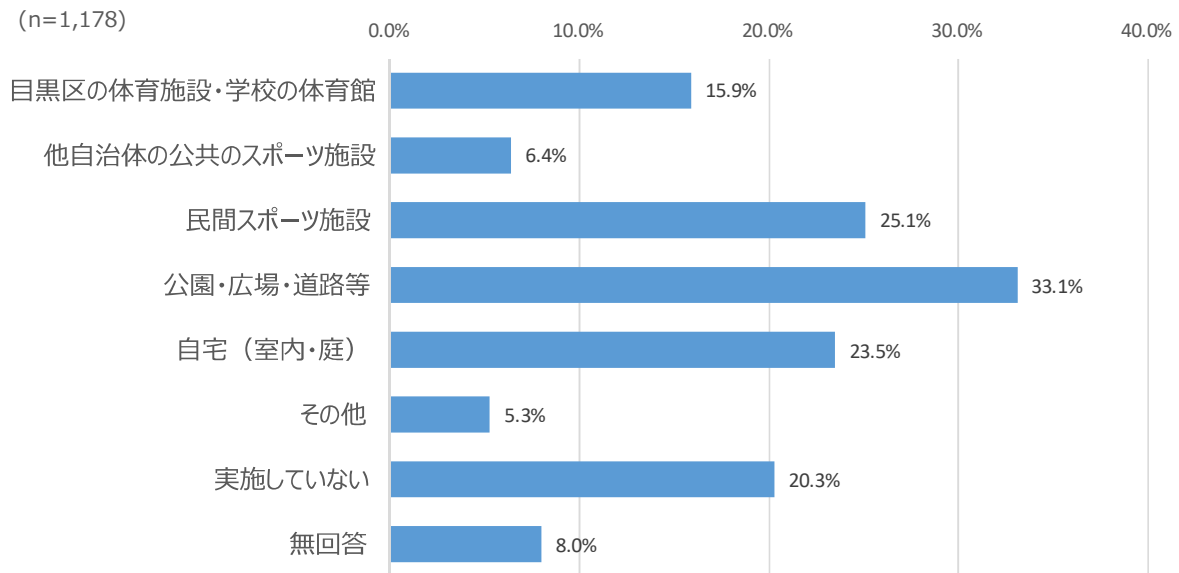


※多摩川河川敷(世田谷区)に目黒区立砦野球場・砦サッカー場があります。

② 運動やスポーツの実施場所

運動やスポーツの実施場所について、公園・広場・道路等が33.1%で最も高く、次いで、民間スポーツ施設(25.1%)、自宅(室内・庭)(23.5%)となっており、目黒区のスポーツ施設・学校の体育館は15.9%に留まっています。

<運動やスポーツの実施場所>

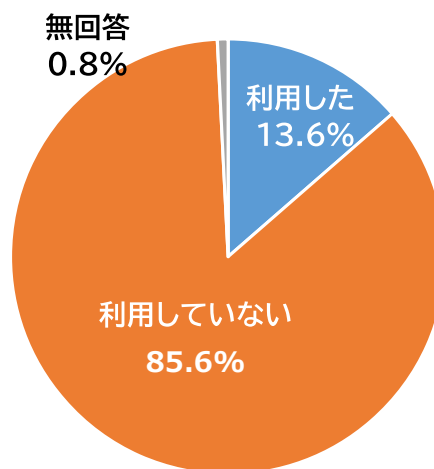


出典)目黒区「第47回目黒区世論調査」(令和5(2023)年)

③ 目黒区立のスポーツ施設の利用有無

目黒区立のスポーツ施設を利用した区民は13.6%に留まっています。

<目黒区立のスポーツ施設の利用有無>



出典)目黒区「第47回目黒区世論調査」(令和5(2023)年)

④ 施設利用率

施設利用率³をみると、体育室(競技場)・屋内プール・庭球場・ゲートボール場については、いずれも8割を超えています。エアライフル場、弓道場、砧野球場・砧サッカー場の利用率は4割以下となっています。

<区立スポーツ施設利用状況(令和4(2022)年度)>

施設名	部屋名	貸切可能数	利用団体計	利用率	令和3年度利用率 (参考)
駒場体育館	体育室	643	593	92.2%	91.9%
	屋内プール	29	29	100.0%	100.0%
	庭球場・ゲートボール場	4,908	4,702	95.8%	97.4%
区民センター 体育館	体育室	755	719	95.2%	95.2%
	屋内プール	101	101	100.0%	100.0%
	庭球場	2,501	2,482	99.2%	99.0%
	トレーニングスタジオ	160	80	50.0%	31.7%
碑文谷体育館	体育室	536	517	96.5%	94.2%
	庭球場	6,469	6,396	98.9%	98.9%
	野球場	841	444	52.8%	63.2%
中央体育館	競技場	1,540	1,337	86.8%	88.6%
	エアライフル場	932	5	0.5%	2.9%
	第1格技場	737	446	60.5%	48.1%
	第2格技場	426	200	46.9%	40.7%
	弓道場	330	117	35.5%	16.9%
	トレーニングスタジオ	1,228	996	81.1%	68.3%
八雲体育館・ 宮前公園庭球場	体育室	336	326	97.0%	0.0%
	庭球場	2,438	2,377	97.5%	98.9%
砧野球場・ 砧サッカー場	野球場	7,696	1,783	23.2%	27.9%
	サッカー場	2,506	668	26.7%	40.9%

出典)目黒区施設利用率データ(令和4(2022)年)

³ 施設利用率とは、施設の利用可能時間枠数に対する、実際に利用された時間枠数のことです。

<区立スポーツ施設>



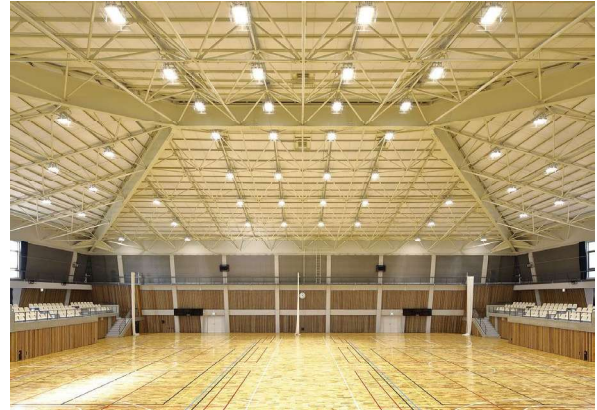
駒場体育館



区民センター体育館



碑文谷体育館



中央体育館



八雲体育館



宮前公園庭球場

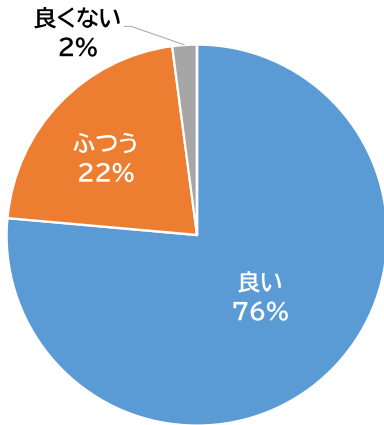


砧野球場・砧サッカー場

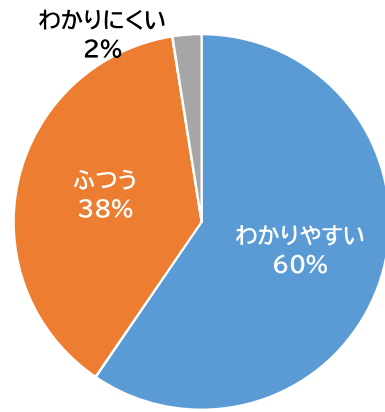
⑤ 施設利用満足度

目黒区スポーツ施設利用者アンケートでは、スタッフや施設、プログラム等について、満足度はおおむね良い～ふつうとの回答となっています。

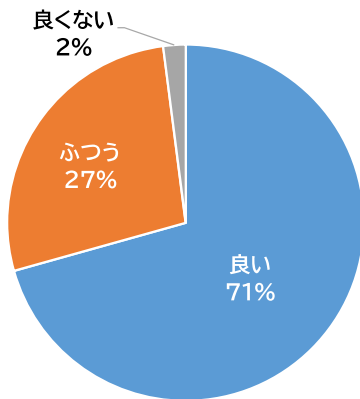
<スタッフの対応について>



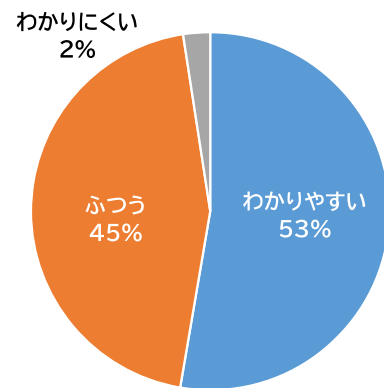
<利用手続きについて>



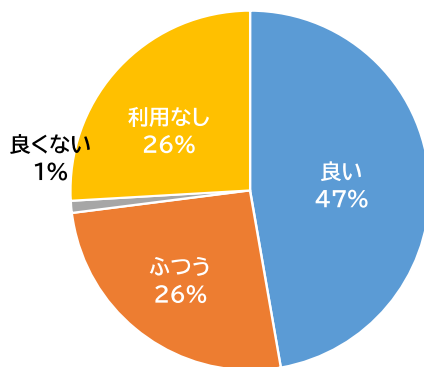
<施設の清掃状況について>



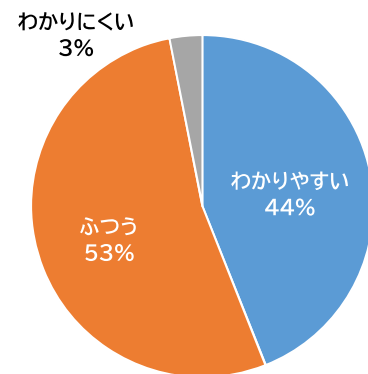
<館内掲示について>



<プログラムについて>



<掲示物(チラシ)の内容>



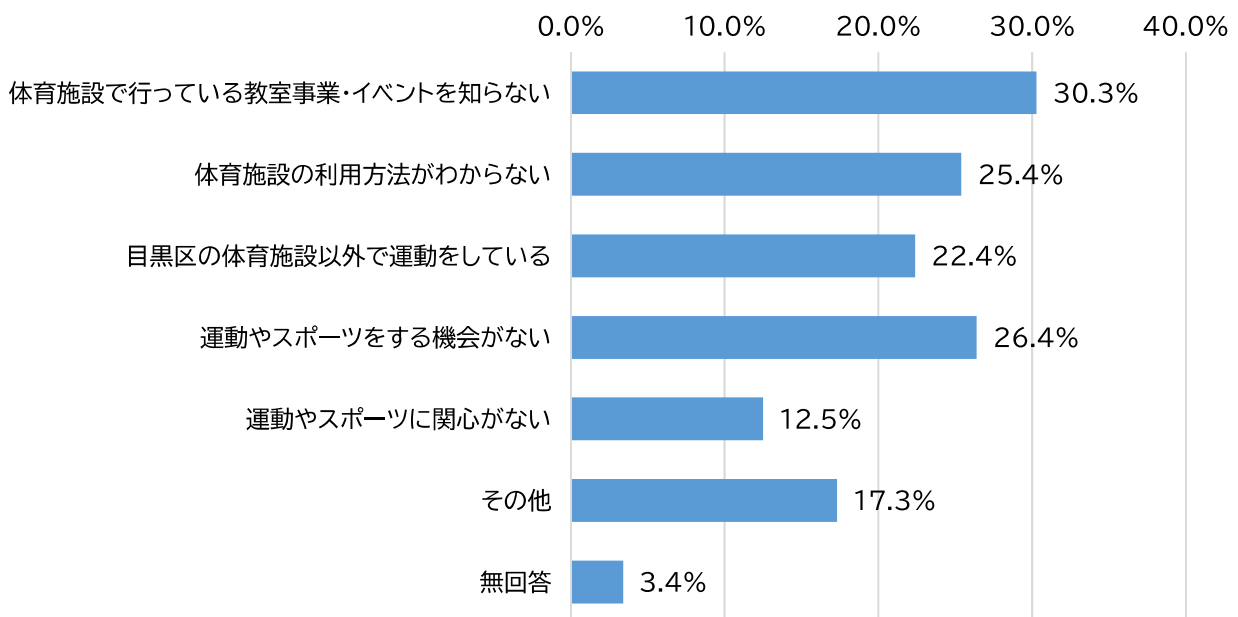
出典)「目黒区スポーツ施設利用者アンケート」(令和5(2023)年)

⑥ 目黒区立のスポーツ施設を利用しない理由

目黒区立のスポーツ施設を利用しない理由について、「施設で行っている教室事業・イベントを知らない」が30.3%で最も高く、施設のイベント情報の周知が浸透していないことが明らかになっています。次いで、運動やスポーツをする機会がない(26.4%)、施設の利用方法がわからない(25.4%)、目黒区の施設以外で運動をしている(民間のスポーツ施設、区外のスポーツ施設等)(22.4%)となっています。

<目黒区立のスポーツ施設を利用しない理由>

(n=1,008)



出典)目黒区「第47回目黒区世論調査」(令和5(2023)年)

⑦ 学校開放

本区では、学校教育に支障のない範囲で目黒区立学校の体育施設(校庭・体育館等)を開放し、スポーツやレクリエーションの場及びコミュニティ形成の場として活用し、地域におけるスポーツ振興と区民相互の交流促進を図ってきました。令和7(2025)年度現在、小中学校28校で実施しています。



(4) スポーツを支える担い手

① スポーツ推進委員

地域スポーツの中心として、本区との連携のもと、地域の特色を生かして地域スポーツの発展のために活動しています。また、地域団体主催のスポーツ大会の支援や区立スポーツ施設指定管理事業者との連携による「スポーツ広場」の実施など、地域の中でのコーディネーターとしての役割を担っています。(令和7(2025)年度現在39名)

② 総合型地域スポーツクラブ

身近な場所でいつでも、また、子どもから高齢者、障害のある方まで誰でも気軽にスポーツや文化活動を楽しめる場として、地域住民等が主体となって運営します。また、地域の特性を生かした、世代を超えた交流事業を展開し、地域スポーツにおける活動及びコミュニティの中心としての役割を担っています。(令和7(2025)年度現在1団体)

③ スポーツ・レクリエーション関係団体(目黒体育協会／各競技団体)

スポーツを広く区民に普及し区民の健康増進、体力の向上及び区民相互の親睦を図るため、人材育成、スポーツの普及・振興に係る取組や競技大会の開催・運営などの活動をしています。(令和7(2025)年度現在42団体)



スポーツ推進委員や関係団体の協力により実施されるめぐろスポーツまつり

コラム:スポーツ推進委員とは？

目黒区スポーツ推進委員は、目黒区から依頼され、スポーツ推進のために活動する非常勤職員です。主な活動は、区におけるスポーツ推進事業実施の連絡調整、区民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導及び助言、学校や地域団体が行うスポーツ事業への協力などで、近隣の区と合同で研修会も行っています。現在、目黒区では、各体育協会および各住区にて選出された39名が活動しています。

4. 本区のこれまでの取組

前計画(平成28(2016)年策定、計画期間 平成28年度～令和7年度(2016～2025))では、子どもや障害者、広く区民のライフステージに応じたスポーツ参加機会の提供を図り、かつ区民が主体的にコミュニティに参加し、みる・ささえるスポーツを楽しめるよう、東京2020大会の開催による機運醸成と区民のスポーツ実施に向けた取組を進めてきました。また、この期間に、前計画策定時には想定していなかったパンデミックの発生による東京2020大会の延期や社会活動の制約が発生しました。

基本施策		10年間の取組成果	総括・評価
基本 施策 1	子どもが スポーツ に親しむ 機会の充 実	<ul style="list-style-type: none"> ● 「子どもサポートプラン」(区立プールの中中学生以下無料開放)利用者増加。 ● 小中学生等対象トップレベル競技観戦によるスポーツへの動機づけ・取組機運醸成。 ● 中高生が継続的に生徒会・部活動で関われる文化的・スポーツ的イベント等を企画・実施。定着傾向の醸成と新団体等による多世代社会参加と地域の活性化を促進。 ● 児童の健康課題改善による満足度・関心度の向上。 ● 「めぐろ ここカラダシート」活用と、家庭との連携により、子ども自身での運動・生活習慣の振り返り、健康の保持増進・体力向上を促進。 ● 部活動指導員等、部活動等外部指導者を希望の学校に概ね配置。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どものスポーツ活動の推進、子どもの居場所づくりや社会参加・世代間交流の創出、子どもの運動実施状況と適切な推進策の検討ができた。 ● 新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用休止のため、一般公開、教室・講習会等が一部中止。利用再開後は、感染防止対策を講じ、可能な限り事業実施。



子どもサポートプラン
(区立プールの中中学生以下無料開放)

めぐろ ここカラダシート

基本施策		10年間の取組成果	総括・評価
基本施策2	区民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 夜間帯の教室実施により、成人の参加機会を拡大。 ● フィットネスクラブ優待利用増加により、健康増進啓発に寄与。 ● 「めぐろスポーツまつり」でのメタボ予防・骨粗しょう症予防の知識の普及啓発。 ● 特定保健指導利用者向けセミナーでの、実技指導。 ● 健康寿命延伸を目指し、生活習慣病の予防や健康維持身体活動の教養講座を開催し普及啓発。 ● 高齢者センター講習会・いこいの家での運動系講習会やクラブ活動を中心に、高齢者がスポーツに親しめる環境づくりを促進し、参加者増加。 ● 日常的な健康相談で健康知識普及・生活習慣改善の情報を提供。 ● リハビリテーション専門職の派遣事業や活動助成金の交付事業により住民主体による介護予防活動を促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人向け・高齢者向け等それぞれにおいて、区民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進を実現。 ● 「めぐろスポーツまつり」や教養講座では、病気・生活習慣病予防の知識を普及啓発。 ● 新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用休止のため、一般公開、教室・講習会等が一部中止。利用再開後は、感染防止対策を講じ、可能な限り事業実施。
基本施策3	障害者がスポーツに親しむ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害特性に配慮したスポーツ事業（一般公開、教室・講習会、交流機会など）を区立施設で継続開催。 ● 利用団体に応じ運動機能・情緒面の発達、社会参加を意識したプログラム実施・件数増加。 ● 知的障害者向け学習活動（生活学習・運動系サークル・文科系サークル）としてステップアップ講座を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者がスポーツに親しむ機会増加。利用団体の特性に配慮したスポーツ事業・メニューを実施。 ● 学習活動の提供により、参加者がより豊かな生活を送るための力を身につける土台づくりを支援。



区立スポーツ施設教室事業

基本施策		10年間の取組成果	総括・評価
基本施策4	区民が主体的に参画し、コミュニティ形成につながる地域スポーツ環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域スポーツクラブ全地区設立に向け部会を定期開催。 ● スポルテ目黒を区のモデル事業として、活動の場を提供し参加者数増加。 ● 区内の社会教育関係団体への指導者派遣等により団体の発展を支援。 ● 社会教育館まつりでは、地域区民参加・コミュニティ形成に寄与。 ● 「目黒シティラン～健康マラソン大会～」開催。 ● 目黒区体育祭37競技大会(春・秋・冬)開催、広く区民のスポーツの推進と健康維持の増進に寄与。 ● めぐろスポーツまつりを毎年開催、子どもから高齢者まで多くが参加。 ● 区民のスポーツ・レクリエーション活動推進のため指導者育成事業を実施。 ● 友好都市の角田市の「阿武隈リバーサイドマラソン」への参加者数増加。 ● 各施設での事業利用者からの意見・要望・課題を把握し利用者増と改善策を模索。 ● 各体育館と区関係部局が連携した事業実施により、相互理解を促進、各体育館が地域の構成員として機能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民が主体的に参画し、コミュニティ形成につながる地域スポーツ環境整備が実現間近。 ● スポルテ目黒の活動の充実、多くの参加者を集める各イベントの実施、施設利用者の意見反映による活動改善が実現。 ● 新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用休止のため一般公開、教室・講習会等が一部中止。利用再開後は、感染防止対策を講じ可能な限り事業実施。
基本施策5	「みる」「支える」スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 「めぐろスポーツまつり」、指定管理者事業、東京2020大会機運醸成・レガシー事業を通じ、トップアスリートとふれあえる機会を創出。 ● スポーツ優秀者に加え、パラスポーツや高齢者スポーツにも表彰・奨励の対象を拡大。 ● 指定管理者事業を中心に、障害の有無を問わないスポーツ交流機会を創出・拡大。 ● 「目黒区スポーツボランティア」制度を導入し、初級パラスポーツ指導員養成講習会修了者が活躍できる環境を整備。 ● 目黒区国際交流協会やめぐろ観光まちづくり協会等と連携し、外国人おもてなしボランティアを育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民がトップアスリートとふれあえる機会の充実、「みる」スポーツと地域スポーツの好循環を生む環境を醸成。 ● スポーツ交流機会の創出、障害者スポーツを「ささえ」人材の活躍の環境整備により、障害者スポーツを応援する環境を拡充。

基本施策		10年間の取組成果	総括・評価
基本施策 6	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への支援と地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 区ホームページで東京2020大会関連情報発信、区内イベントでのパネル展開催、普及啓発活動等実施。 ● 開催に向けた気運醸成・まちの魅力発信のため、「目黒シティマラソン～健康マラソン大会～」等各種機運醸成事業を実施。 ● オリンピック・パラリンピックの歴史・意義・役割・国際理解を目的とし、区立小・中学校、園にて、トップアスリートを講師とする教育事業を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民の関心の喚起・機運醸成に向け、情報発信・拡充、関連イベント等展開。 ● オリンピック・パラリンピック教育事業は、今後も継続する教育活動(「学校2020レガシー」)として各校の年間指導計画に位置づけ。
基本施策 7	区民が気軽にスポーツができる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 区立各スポーツ施設の改築・改修時に、エレベーター・スロープ・バリアフリートイレの設置等、バリアフリーデザインに配慮し環境整備。 ● 区立スポーツ施設指定管理者間の連絡調整会議や運営評価委員会を定期的開催、適切な評価を実施。 ● 区民が気軽にスポーツができる環境として区立公園への運動器具設置、学校施設開放、スポーツ施設ではない区有施設の日常的な運動・スポーツの場としての有効活用を実施。 ● 「目黒区世論調査」において、「運動やスポーツの実施状況」等の調査を定期的(3年に1度)に実施。スポーツイベント参加者・施設利用者へのアンケート調査により施設運営や事業展開改善を実施。 ● 区のスポーツ推進に関する各種会議体への参加、関係団体との情報交換、情報収集を通じた連携強化を実施。 ● スポーツ専門広報紙として「広報紙「めぐろスポーツニュース」」(月1回発行)を創刊、区公式ホームページやSNSを活用し情報発信を継続。令和6(2024)年度区報で、スポーツ施設利用方法に関する特集号発行。 	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリーデザインに配慮した適切な環境を段階的に整備。 ● 各種施設を活用し、区民がより気軽に運動・スポーツに親しむことができる環境を整備。 ● 区のスポーツ推進に関する関係団体と連携強化。 ● 区のスポーツ関連情報を独自・定期的に発信可能な環境を整備。

5. 取組の課題と方向性

(1) これまでの取組の課題と本計画の取組の方向性

これまでの取組を踏まえ、課題の抽出を行うとともに、国の第3期スポーツ基本計画の視点に沿って取組の方向性を検討しました。

分野	これまでの取組の課題	本計画の取組の方向性
子どもがスポーツに親しむ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 「子どもサポートプラン」(区立プールの中学生以下毎週土曜日無料開放)における利用者同士の接触等安全・安心上の課題解決や関係団体との連携。 ● 観戦事業の種目数・観戦者数の拡大、ファミリーでの体験・実施につながる連携、インクルーシブスポーツ等の体験、アイデアづくりの機会創出。 ● 世代間交流や中高生の社会参加等の新たな事業展開。 ● 持続可能な部活動等と教員の負担軽減の実現に向けた安定的な人材確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ● (する・みる・ささえるの視点)親子・ファミリーでの健康づくりや交流創出。 ● 地域スポーツ活動への参加促進による、子どもの健康課題解決、社会参加、地域の世代間交流や相互扶助を創出する取組。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)スポーツをつくるアイデア・発想の触発、集団活動・非認知能力の向上、インクルーシブ教育や地域交流。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)子どもの地域スポーツ活動参加を通じ、まちの活性化・SDGs推進等に寄与する取組。 ● (DX 推進の視点)子どもの健康づくり機会提供や指導者の研修機会等へのデジタル技術の活用。
区民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの区民の公平な参加を意図した、曜日・時間帯・教室種類の検討。 ● 特定保健指導等のセミナーにおける周知方法の改善。 ● 高齢者のイベント開催時の健康状態の確認、看護師の配置等。 ● 高齢者センター講習会アンケート調査に基づいた内容の見直し。 ● 身体活動量増加意義・方法についての学習機会の充実。 ● 竹の子クラブへの加入率向上に向けた広報誌や活動内容改善による普及啓発。 ● 介護予防普及啓発事業の推進、体育館等地域資源の紹介、住民主体の介護予防活動支援等地域での介護予防推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフステージに応じた以下の取組を実施。 ● (する・みる・ささえるの視点)健康寿命延伸のための健康づくり・介護予防の取組。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)地域交流につながる取組。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)誰もが健康で過ごせるよう、まちの活性化・SDGs 推進等に寄与する取組。 ● (DX 推進の視点)身体活動量増加の意義・デジタルツールでの学習機会充実。

分野	これまでの取組の課題	本計画の取組の方向性
障害者がスポーツに親しむ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 介助者への基礎的知識・技術提供や、職員の障害者スポーツ指導員資格取得推奨、研修実施、障害者施設との連携継続。 ● プログラム利用増に向けた積極的なPR。 ● 継続的な講座実施のための活動内容改善とスタッフの安定的確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ● (する・みる・ささえるの視点)障害者の自立や社会参加につながる取組としてのインクルーシブスポーツの機会設定。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)継続的なスポーツ環境確保・提供、誰でも参加できるスポーツをつくる機会の創出。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)ノーマライゼーション社会の実現を目指す取組。 ● (DX 推進の視点)障害者のスポーツ前後の体調把握や、指導者の研修機会の提供などへのデジタル技術活用。遠隔でも参加可能で、簡易なデジタルスポーツの導入・普及。
区民が主体的に参画し、コミュニティ形成につながる地域スポーツ環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合型地域スポーツクラブ設立には、活動の場・人材・設立資金確保が課題。 ● スポルテ目黒モデル事業継続運営への支援のあり方・人材確保。 ● 社会教育学級申請団体数維持に向けた広報。 ● 社会教育館まつり企画・運営の新規人材確保。 ● 「目黒シティラン～健康マラソン大会～」当面休止。 ● 体育祭運営円滑化には関係団体との連携強化、スポーツ施設の老朽化対策が課題。 ● スポーツ・レクリエーション事業実行委員会への多様な区民参画に向けた関係団体との連携・強化。 ● スポーツボランティアの登録制度周知促進、登録者の有効活用。 ● 友好都市におけるスポーツイベントへの参加周知方法検討。 ● 利用者懇談会参加人数分散化やオンライン活用等実施方法の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ● (する・みる・ささえるの視点)支える団体の持続的運営高度化・効率化支援。子ども・障害者など対象者別スポーツを推進するための連絡会等の構築支援。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)多様な区民参加によるユニバーサルスポーツづくりワークショップ等交流促進の取組。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)区民間スポーツ交流によるまちの活性化への寄与。 ● (DX 推進の視点)指導者育成・懇談会等多様な交流へのデジタル技術活用、地域内外交流のためのバーチャルスポーツ⁴導入・普及。

⁴ バーチャルスポーツとは、家庭用ゲーム機などを使ってスポーツを疑似体験するもののうち、手足や体の動きに合わせて操作できるコントローラーを使うなど、実際に体を動かす要素を含むものです。

分野	これまでの取組の課題	本計画の取組の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業実施に向け区関係部局に加え新たな地域団体との連携検討。 	
「みる」「支える」スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者スポーツ関心向上イベント等開催の継続・拡充。 ● トップアスリートとのふれあいをスポーツへの関心向上、競技開始・継続へつなげる事業展開。 ● 障害の有無に関わらないスポーツ交流機会の実施方法・参加促進方法の検討。 ● 障害者のスポーツ参加・継続機会の創出、情報発信・周知の強化。 ● パラスポーツ指導員養成講習会修了者へのボランティア登録制度の周知、指定管理者のボランティア登録者の活用促進。 ● 障害者のスポーツ支援ニーズ把握による、パラスポーツ指導員の活躍の場の拡充。 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとなる、外国人おもてなしボランティア活躍の場の拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> ● (する・みる・ささえるの視点)「みる」スポーツ機会から「する」スポーツへの好循環創出の取組強化。 ● デジタル技術を用いたスポーツ観戦・体験の提供。 ● スポーツアスリートの競技以外の活躍機会や、支える人材が活躍する場・イベントの創出。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)障害者も含めた交流や仲間づくり促進による共生社会の推進。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)トップアスリートとの交流機会継続によりスポーツへの関心・スポーツを通じた健康維持、地域への愛着・誇りの醸成。 ● (DX 推進の視点)トップアスリートを身近に感じられるデジタル活用事業の展開・連携。
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への支援と地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 機運醸成事業である「目黒シティマラソン～健康マラソン大会～」等終了後の新たなレガシー事業の検討。 ● 新型コロナウイルス感染症の影響により実現不可となった、スポーツによる国際交流を通じた取組の可能性検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ● (する・みる・ささえるの視点)区民のする・みる機会を創出するレガシー事業の推進。 ● スポーツを通じた国際交流機会創出。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)「学校2020レガシー」による、区内の幼児・児童・生徒の学び継続により、スポーツを通じた共生社会実現の理解・機運醸成。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)(前掲)区民のする・みる機会を創出するレガシー事業への継承。 ● (DX 推進の視点)デジタル技術(AR/VR、メタバース)を活用したスポーツイベントや国際交流事業の展開。

分野	これまでの取組の課題	本計画の取組の方向性
区民が気軽にスポーツができる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模改修・更新時の適正なスポーツ施設規模・施設運営・利用者満足度向上の検討。 ● 公園・学校体育施設・コミュニティ施設など、スポーツ施設以外のストックの有効活用によるスポーツの「場づくり」。 ● スポーツ施設以外での文化・スポーツ事業実施の機会創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ● (する・みる・ささえるの視点)区立施設老朽化・大規模改修・更新のタイミングを踏まえた持続的なスポーツ環境維持・「質」の向上に向けた取組。 ● オープンスペースをスポーツ環境として活用する取組。 ● まちの回遊、商店街との連携。 ● (つくる／はぐくむ／あつまり、ともに、つながる／誰もがアクセスできるの視点)区内関係団体との連携や、新たな事業創出。 ● ターゲット別(単身、子育て世帯、子ども、女性、障害者、高齢者等)や、スポーツへの関心・実施状況の段階別(無関心、体験、定着・継続、ささえる・みる)に応じた効率的・効果的な情報提供。 ● 多様な区民参加によるユニバーサルスポーツづくりワークショップ等アイデア・発想を誘発する取組。 ● (スポーツ×まちづくりの視点)区民が気軽にスポーツに親しめる場づくり。 ● (DX 推進の視点)デジタル技術活用による、スポーツ施設以外やリモート参加可能なスポーツの普及と、体験の場の提供。

(2) 本区の推進の課題

① 多様な形態のスポーツ実施

区全体のスポーツ実施率は微増ですが、前計画の目標は達成できておらず、スポーツをほとんど行わない人の割合も減っていません。また、区内5地区に区立スポーツ施設がありますが、区民の公共スポーツ施設の利用率は必ずしも高くありません。

子育て世代、女性、若年層、障害者など、多様なニーズを俯瞰し、スポーツ・運動をやりたくとも何らかの理由で実施できない、あるいはスポーツ・運動に関心をもてない方が、身近に取り組めるスポーツ・レクリエーションを紹介・普及するプログラムの実施、効果的な情報発信が必要です。

また、デジタル技術を活用し、誰でも、どこでも、いつでも、スポーツに取り組める環境整備、移動の負担軽減や遠隔でも参加できるしくみの普及が課題です。みるスポーツについても、直接観戦に間接観戦も加え、みることからするスポーツ・ささえるスポーツにつなげていく必要があります。障害の有無や年齢、性別、国籍等にかかわらず、誰もが参加しやすい「インクルーシブスポーツ」の展開やユニバーサルデザインへの対応が求められています。

② スポーツを通じた健康づくり

少子高齢化に伴い、子ども時代から健康とスポーツの関連性を理解し、スポーツと親しんでいくことや、介護予防・フレイル予防をはじめとした、運動・スポーツを通じた健康増進・健康寿命の延伸が課題となっています。また、妊娠期から子育て期の健康管理、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸など、成人の健康づくりにスポーツを活用していくことが有効と考えられます。

③ 文化・観光・まちづくり等他分野との連携

スポーツに親しめるまちにするためには、公民連携プラットフォームも活用しつつ、文化・観光・まちづくりなど、あらゆる場面でスポーツに気軽に参加しながら、地域間・世代間交流を進めることが有効と考えられます。また、国際交流、ダンスを含む文化芸術、周辺の商業・観光等の連携による相乗効果も意識する必要があります。

ささえるスポーツについては、まず、指導や送迎の手伝い、学校開放の安全指導員などの身近な活動が、「ささえるスポーツ」という概念として一般的にそれほど認識されていませんでした。また、ボランティアを意識したイベントの企画等が必ずしも行われていないことも傾向としてありました。一方で、スポーツを支える団体のガバナンス、人材確保・デジタル技術活用による運営効率化も課題となっています。

(3) 本区の強み・弱みと取組の方向性

本区のスポーツ環境の強み・弱み、機会・懸念を SWOT 分析⁵の枠組みで整理しました。強みは、中高年の方のスポーツ実施率が高いこと、学校施設の利用が盛んであること、弱みは、スポーツを実施していない層には参加しやすいプログラムが少ないことなどです。機会は、国際大会の開催や文化・観光との連携などが特色である一方、懸念として、高齢化による介護予防・フレイル予防の必要性が高まっていることなどがあります。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境 (本区の状況)	<p><Strength:強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 30-40代男性のスポーツ実施率が高い。 ● 公共施設の施設利用率が高い。 ● ランニングなど屋外スポーツの実施率が上がっている。コロナ以前(平成29(2017)年)と比較すると、ウォーキングやジョギングなどの野外活動や健康体操の回答が増加、屋内外球技や水泳は減少。 ● 学校開放におけるスポーツが活発。 ● 民間プールの利用を推進。 ● ダンス・カルチャーの多世代への普及。 	<p><Weakness:弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ実施率が目標値に到達していない(都の水準より低い)。 ● スポーツを実施していない層(無関心層、実施したいができない層など)が減っていない。 ● 年齢階級別・性別で実施率に差がある。 ● 一部子どもの運動実施率が都平均に比べて低い。 ● 公共施設で利用率が低い競技がある。 ● ファミリーと一緒に参加できるプログラムが少なめ。 ● イベント・事業の参加希望は一定程度あるが、周知方法が対象者グループごとに整備されていない。
外部環境 (本区を取り巻く環境)	<p><Opportunity:機会></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界陸上やデフリンピックが開催され、大規模国際大会のボランティアの機運が高まる。 ● 部活動の地域連携・地域展開が進む。 ● デジタル技術を活用した取組が受容されている。 ● 地域での世代間交流に意欲がある。 ● つくるスポーツなどの機運が高まっている。 ● 国際交流のレガシーがある。 ● 文化・観光と連携がしやすい(回遊マップ等)。 ● インクルーシブスポーツが注目されている。 ● 民間スポーツ施設が充実してきている。 ● 学校施設の更新等に伴い区の施設が複合化される。 ● 公民連携プラットフォームの活用。 	<p><Threat:懸念></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 単身世帯のうち高齢(65歳以上)単身世帯が、今後増加すると見込まれている。 ● 介護予防・フレイル予防の必要性が高まっている。 ● 高齢男性の中にはコロナ後に運動・スポーツに戻ってきていない方もいる。 ● 身体障害者手帳の交付数は、横ばいで推移している。愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付者数は増加傾向となっている。 ● 社会的人手不足、物価上昇により、団体組織の運営、人材確保・育成に限界がある。 ● 学校施設の老朽化が進み、改修中は利用不可となる。

⁵ SWOT 分析とは、内部環境および外部環境におけるプラス面とマイナス面を整理することで、現状を把握・分析し、効果的な戦略を策定するための手法のことです。

スポーツ実施率を向上する取組の方向性としては、①中高年や障害者が取り組みやすいスポーツや運動を紹介・普及していくこと、②いつでもどこでも誰でも体を動かすことが気軽にできるアプリやデジタルの活用やユニバーサルスポーツによる交流を促進すること、③文化・観光・まちづくりなど他分野とのコラボレーションを進めることなどが考えられます。

	Opportunity: 機会	Threat: 懸念
Strength 強み	<p><強みを生かして機会を活用する領域></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 複合施設や民間施設などを活用した世代間交流・国際交流やスポーツをする機会の推進。 ● 働く世代を巻き込んだ文化・観光との連携。 ● スポーツ施設以外でのデジタルを活用した取組の推進。 ● 世代間交流でのつくるスポーツの推進、ダンス文化と連携したプログラムの実施。 ● 競技大会以外のスポーツ関連イベント(つくるスポーツ、世代間交流)の開催とボランティアの活用。 	<p><強みを生かして懸念に立ち向かう領域></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進む中での福祉施設等でのフレイル予防等の運動・スポーツ実施。 ● 障害者が増加する中で、簡易なスポーツを通じた開かれた場でのインクルーシブな運動の実施・普及。 ● 担い手の高齢化が進む中でのデジタルを用いた団体運営の効率化。 ● 競技スポーツ離れの中、一緒に楽しみながら手伝える簡易なスポーツ・運動におけるボランティアのハードルを下げる取組。
Weakness 弱み	<p><弱みによる機会損失を補完する領域></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 競技だけでなく、デジタル・つくるスポーツや国際交流、文化・観光などの新しいスポーツとの接点を増やすことで、する・みる・ささえるを一体的に推進し、結果的に実施率が向上するよう促す取組。 ● 無関心層が、スポーツと意識せず、区のあらゆる場所で、まちづくりの中でスポーツのコミュニティに加わっていただけるような施策。 ● 多様な区民を受け入れられるプログラムの実施。 ● ファミリーや子どもなどセグメントを意識した情報発信。 	<p><弱みにおける懸念を軽減する領域></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者・障害者・子どもたちなどが、スポーツ自体や、まち・コミュニティから取り残され孤立化しないよう、交流を主目的とするスポーツのプログラム、移動に伴う困難を軽減する、遠隔で参加できるスポーツのプログラムの実施。



メグロダンスコネクション



高齢者向けプログラム

(4) 今後の取組のロジックモデル

ここまでの課題や分析を踏まえ、令和4(2022)年度から10年間の「基本計画」の基本目標2「人が集い活力あふれるまち」政策7「スポーツに親しむ環境づくり」における区政評価指標「誰もが気軽にスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じた交流が生まれていると思う区民の割合」を令和13(2031)年度末に75%にするために、EBPM(根拠に基づく政策立案)を意図し、政策の長期的なアウトカムを想定し、ロジックモデルに基づく施策体系の設計・成果指標の設定を行いました。

インパクト	最終アウトカム	アウトカム (区民生活の変化)	アウトプット・アクティビティ
誰もが気軽にスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じた交流が生まれている	誰もがスポーツに親しむ機会を得ている	子どもから高齢者までライフステージに応じてスポーツの実施を楽しんでいる	子ども、ファミリー層、高齢者などを対象としたスポーツに親しむ機会の充実
		観戦やアスリートとの交流を楽しんでいる	直接観戦・間接観戦機会提供、アスリート交流イベントの実施、スポーツ表彰と広報
		障害者、外国人含め、誰もが親しめるインクルーシブスポーツを楽しんでいる	つくるスポーツ、インクルーシブスポーツ普及
		スポーツ環境(施設等)を活用している	児童館、高齢者センター、福祉施設でのスポーツ機会の提供、学校施設開放制度の運用
		スポーツに関する必要な情報を得ている	対象グループを意識した効果的な情報発信
		新たなスポーツ(バーチャルスポーツ等)に親しんでいる	デジタル技術を活用したeスポーツを展開
	スポーツを通じて健康づくりが進んでいる	子どもたちが健康づくりを学んでいる。	体育科・保健体育科での健康づくりの学習・実践
		女性も含めて成人の健康づくりにスポーツ・運動を活用している	生活習慣病予防、女性の健康など、成人の健康づくりとスポーツ施策の連携強化
		高齢者が介護予防・フレイル予防などにスポーツ・運動を活用している。	高齢者の介護予防・フレイル予防の充実 高齢者センター等でのスポーツ活動の実施
	スポーツを通じたつながりが創出されている	スポーツを通じた世代間・地域内外の多様な交流をしている	親しみやすいスポーツ大会・イベント 子ども・成人・高齢者の世代間交流、 公民連携プラットフォームを通じた連携
		スポーツ指導、ボランティア等スポーツを支える活動に参加している	指導者の育成、ボランティアの活動機会情報提供、地域スポーツクラブ・団体の運営支援、部活動地域連携の促進、スポーツの安全に関する知識の周知・理解浸透
		スポーツを通じて国際交流をしている	海外友好都市や区内大使館等との交流事業、留学生等外国人との交流イベント、武道体験などによる国際交流
スポーツを通じた都市空間の活用、歴史・文化芸術・観光・商業などに親しんでいる		公園の活用、歩けるまちづくり・自転車による回遊の連携、歴史・文化芸術・観光・商業との連携	

